

特色ある教育活動の方向性について

1 第2期実施計画（p18）における記載

開設準備委員会において、次のような「統合校が目指す姿」及び「統合校における教育活動の例」を踏まえ、統合校の名称のほか、具体的な取組等について協議します。

【統合校が目指す姿】

- 生徒の個性や能力を伸ばし、大学等への進学や就職等、生徒一人一人の幅広い進路志望の実現に寄与する高校
- 地域と連携・協働した探究的な学びを通して、生徒の地域社会の発展に貢献する意識を醸成する高校

【統合校における教育活動の例】

- 生徒一人一人の学習ニーズに応じたきめ細かな指導や、社会的・職業的自立に向けた系統的なキャリア教育の推進
- 地域行事への積極的な参加等、統合の対象となる学校がこれまで取り組んできた、地域の歴史・文化に対する理解や愛着を深める教育活動の推進
 - ・浪岡北畠まつりへの参加や笛・ねぶた灯籠づくり等
- 地域資源を活用したボランティア活動等、統合の対象となる学校がこれまで取り組んできた、社会に積極的に関わり、地域の魅力を国内外に発信する教育活動や豊かな心、健やかな体等の生きる力を育む部活動の推進
 - ・「青西観光大使」や「青西おもてなし隊」等の活動を通して、生徒が主体的に企画・運営する「青西人づくり・街づくりプロジェクト」等
 - ・浪岡高校における空き缶壁画の制作・展示等
 - ・浪岡地域において築き上げてきたバドミントンの活動等

2 統合校に引き継ぎたい特色ある教育活動

論 点

両校からの提案をもとに、統合校に引き継ぎたい特色ある教育活動としてどのようなことが考えられるかという視点で協議する。

【両校からの提案】

青森西高校

○文武両道の精神に基づいた学業と部活動の両立

文化・スポーツ活動のほか、おもてなし隊を始めとする地域貢献活動は、本校の特色ある教育活動の一つである。

昨年度は、全校生徒の約80％が部活動等に参加しており、多くの大会やコンクールなどで活躍し、成果を挙げている。これらの生徒を含め、毎年30名以上の生徒が国公立大学に進学している。

青 森 西 高 校	○おもてなし隊をはじめとする地域貢献活動 「クルーズ船寄港歓迎催事」、「三内丸山縄文祭り」、「保育ボランティア」、「地域ねぶたの制作から運行までの手伝い」、「ＪＲ新青森駅と連携したイベント」など、昨年度は４５回の活動に延べ４５７名の生徒が参加した。 今年度から、これらの地域貢献活動を学校設定教科として教育課程に明記し、規定時間（今年度は１７０時間）の活動を単位認定することとしている。 ○青森西観光大使 生徒の郷土愛を育むことを目的に、青森の魅力を国内外に発信する教育活動を行っている。具体的には、修学旅行で青森の魅力をまとめたパフレットや県産品を配布し、本県をＰＲする「青森西観光大使」の実施である。 今年度は、２学年が、昨年度の「あおり創造学」で学び、製作した津軽塗のスプーンを用いたＰＲ活動を「青森西観光大使」の活動として実施する。 ○他校との協働学習 生徒会やおもてなし隊を中心に、同様の地域課題を持つ八戸西高校と連携した課題研究に取り組んでいる。まだオンラインで数回しか実施していないが、今後も継続したい教育活動である。 また、同様に北海道新幹線の延伸を見据え、昨年度から行ってきた長万部高校との協働学習も継続したい教育活動である。 ○中高連携事業 三内中学校や新城中学校と連携した教育活動は継続したい。これまでは、三内地区の地域ねぶたの運行を連携して行ってきたほか、新城中学校とは、折り紙金魚ねぶたの製作から新青森駅での配布、新城川の清掃活動など、連携して活動を行ってきた。 今年度は、両中学校に本校生徒を派遣し、探究活動の成果発表会を実施することを計画している。 ○高大連携事業 青森大学、青森中央学院大学、青森明の星短期大学と高大連携協定を結んでおり、大学を訪問しての体験講座や、本校での各種講演会への講師派遣などで連携している。これらの高大連携事業は、生徒の探究心を刺激し学習意欲を高めることに繋がり、将来の進路を考える上でも大切な教育活動である。 今年度は、青森公立大学の講座にも参加しており、今後は県内の国公立大学とも連携協定を結ぶことが必要であると考えている。 ○学校運営協議会による活動 昨年度、学校運営協議会を設置し、地域と連携・協働しながら教育活動を推進している。今年度は、委員の方々と数名の生徒がパネリストとなり、「私にとっての青森」というテーマでパネルディスカッションを実施する。 青森市内では全小中学校に同協議会が設置され、地区ごとに小学校を取りまとめる中学校が決まっているが、今後は、義務教育段階に限らず、学校と地域が連携して地域のこどもたちの成長を見守る教育活動がさらに重要となってくる。 このようなことを踏まえ、青森市の西地区に位置する統合校においては、浪岡地区も含めた市内西地区が持つ教育資源を取り入れ、充実した教育活動を進めるとともに、地域に貢献する人材の育成に継続して取り組んでいく必要がある。
-----------	---

浪岡高校	○こども園との交流 「こども園 瑞穂」の園児を運動会に招待し、園児による障害物競走を種目の一つとして実施している。 本校家庭科クラブの生徒による必要物品や衣装の作成や、園児による高校生へのお礼のメダル作成やダンスパフォーマンス披露など、素晴らしい交流の機会であり、本校生徒の情操教育に大変役立っている。 ○コミュニケーショントレーニング 生徒の孤立を防ぐため、入学式、新入生オリエンテーション、運動会、SOSの出し方教室、競技大会などにおいて、様々な生徒が関わり合い、他者を認める雰囲気を作っている。 ○浪高おしゃべりウィーク 校長をはじめ、全教職員が生徒と会話し、関係性を築くきっかけとする。生徒が声をかけやすい教職員を増やし、相談しやすい環境を作ることを目的としている。 ○教養コースと商業実務コースの設定 2年次から教養コースと商業実務コースに分かれて学習する。 教養コースには数学探究、理科探究、鍵盤楽器基礎という学校設定科目や保育基礎などを、商業実務コースには商業科目を設定し、進路希望等に応じた学習を進めている。 ○ボランティア活動 「浪岡地区 安全・安心まちづくり推進大会」や「浪岡地区 子どもの祭典」など、様々な地区の行事に生徒がボランティアとして参加している。
------	--

3 統合校の新たな特色ある教育活動

論 点

統合校の特色ある教育活動について、現在、両校で取り組まれていない新たな教育活動としてどのようなことが考えられるかという視点で協議する。